

技術的条件集別表 13 (TTC仕様) の記述に関する留意事項

1. 本別表は、以下に示すTTC標準をベースドキュメントとし参照している。

本別表の標準番号	TTC標準の標準番号及び版数(制定月日)
NTT-Q771	JT-Q771 第2版(1997年4月23日)
NTT-Q772	JT-Q772 第2版(1997年4月23日)
NTT-Q773	JT-Q773 第2版(1997年4月23日)
NTT-Q774	JT-Q774 第2版(1997年4月23日)

2. 本別表では、TTC標準の規定と当社の規定に差分がある場合についてのみ、その具体的内容を記述している。以下にTTC標準の規定に準拠した事項及び、TTC標準の規定との間に差分がある事項の表記方法を示す。

1) TTC標準の規定に準拠している事項

【JT-Q***に準拠する】

2) 当社では規定していないが、TTC標準では規定している事項

【JT-Q***では を規定している】

~TTC標準規定の記述~

3) TTC標準では規定しているが、当社網、直接協定事業者網間では使用、あるいは適用しない事項

【規定しない】

3. 本別表で用いられる、用語、語句の意味は、TTC標準の内容に準拠している。

4. 本別表のセクション番号は、TTC標準のセクション番号に対応している。

ただし、TTC標準のセクション番号はITU-Tのセクション番号に対応しており、またITU-Tでのみ規定されていて、TTC標準、当社のどちらも規定していない事項については、その記述を全て割愛してあるため、セクション番号が連続しない場合がある。

NTT - Q771 トランザクション機能の機能内容

1. 序論 【JT - Q771に準拠する】
2. 概要 【JT - Q771に準拠する】
3. コネクションレスネットワークサービスに基づいたTCにより提供されるサービス
 - 3.1 コンポーネントサブレイヤ
 - 3.1.1 コンポーネントサブレイヤプリミティブの概要 【JT - Q771に準拠する】
但し、「TC - 結果 - NL」プリミティブは規定しない。
 - 3.1.2 ダイアログ処理 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.1.3 コンポーネント処理
 - 3.1.3.1 パラメータの定義 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.1.3.2 オペレーション起動 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.1.3.3 成功報告 【JT - Q771に準拠する】
但し、「TC - 結果 - NL」プリミティブは規定しない。
 - 3.1.3.4 失敗報告 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.1.3.5 TCユーザによる拒否 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.1.3.6 オペレーションの取消 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.1.3.7 オペレーション起動のリセット 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.1.3.8 メッセージ内コンポーネントのグループ化 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.1.4 異常状態 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.1.5 コンポーネント状態と状態遷移図 【JT - Q771に準拠する】
但し、「TC - 結果 - NL」プリミティブは規定しない。
 - 3.1.6 コンポーネントサブレイヤのトランザクションサブレイヤ上へのマッピング
【JT - Q771に準拠する】
 - 3.2 トランザクションサブレイヤ 【JT - Q771に準拠する】
 - 3.3 コネクションレスネットワークレイヤにより提供されるサービス 【JT - Q771に準拠する】

1. 概要 【JT - Q772に準拠する】
2. トランザクション部 (Transaction portion) 【JT - Q772に準拠する】
3. コンポーネント部 (Component portion) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.1 コンポーネント種別 (Component Type) 【JT - Q772に準拠する】

但し、コンポーネント種別 - 結果応答 (途中) (Return Result (Not Last)) は規定しない。
 - 3.1.1 起動 (Invoke) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.1.2 結果応答 (途中) (Return Result (Not Last)) 【規定しない】
 - 3.1.3 結果応答 (最終) (Return Result (Last)) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.1.4 エラー応答 (Return Error) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.1.5 拒否 (Reject) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.2 起動ID (Invoke ID) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.3 関連ID (Linked ID) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.4 オペレーションコード (Operation Code) 【JT - Q772に準拠する】

但し、コンポーネント種別 - 結果応答 (途中) (Return Result (Not Last)) は規定しない。
 - 3.5 パラメータ (Parameter) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.6 エラーコード (Error Code) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.7 問題コード (Problem Code) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.7.1 一般問題 (General Problem) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.7.1.1 認識不能コンポーネント (Unrecognized Component) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.7.1.2 不正コンポーネント (Mistyped Component) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.7.1.3 構成誤りコンポーネント (Badly Structured Component) 【JT - Q772に準拠する】

但し、コンポーネント種別 - 結果応答 (途中) (Return Result (Not Last)) は規定しない。
 - 3.7.2 起動問題 (Invoke Problem) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.7.3 結果応答問題 (Return Result Problem) 【JT - Q772に準拠する】
 - 3.7.4 エラー応答問題 (Return Error Problem) 【JT - Q772に準拠する】
4. ダイアログ部 (Dialogue portion) 【JT - Q772に準拠する】

NTT - Q 7 7 3 トランザクション機能のフォーマットと符号化

- 1 . 序論 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 2 . 記述上の取り決め 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 3 . 抽象構文記述 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . メッセージ表現 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 1 符号化則
 - 4 . 1 . 1 符号化則の仕様 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 1 . 2 符号化則の概要 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 1 . 2 . 1 一般メッセージ構造 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 1 . 2 . 2 タグ 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 1 . 2 . 3 内容長 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】

但し、不定長形式は規定しない。
 - 4 . 1 . 2 . 4 内容 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 1 . 3 伝送順序 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 2 メッセージ符号化
 - 4 . 2 . 1 トランザクション部 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 2 . 2 コンポーネント部 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 2 . 2 . 1 コンポーネント種別タグ 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】

但し、結果応答（途中）コンポーネントは規定しない。
 - 4 . 2 . 2 . 2 コンポーネントIDタグ 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 2 . 2 . 3 オペレーションコードタグ 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 2 . 2 . 4 パラメータタグ 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 2 . 2 . 5 エラーコードタグ 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 2 . 2 . 6 問題コード 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
 - 4 . 2 . 3 ダイアログ部 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】
- 付属資料A（J T - Q 7 7 3 に対する） 【 J T - Q 7 7 3 に準拠する 】

- 1 . 序論 【 J T - Q 7 7 4 に準拠する 】
- 2 . アドレッシング 【 J T - Q 7 7 4 に準拠する 】
- 3 . コネクションレスネットワークサービスに於けるトランザクション機能
 - 3 . 1 T C におけるサブレイヤリング 【 J T - Q 7 7 4 に準拠する 】
 - 3 . 2 コンポーネントサブレイヤ手順 【 J T - Q 7 7 4 に準拠する 】
 - 3 . 2 . 1 正常手順
 - 3 . 2 . 1 . 1 コンポーネント処理手順
 - 3 . 2 . 1 . 1 . 1 T C コンポーネント処理サービスプリミティブのコンポーネント種別へのマッピング
【 J T - Q 7 7 4 に準拠する 】
 - 3 . 2 . 1 . 1 . 2 起動 I D の管理 【 J T - Q 7 7 4 に準拠する 】
但し、サービスプリミティブ： T C - 結果 (RESULT) - N L (コンポーネント種別：結果応答 (途中))
は規定しない。
 - 3 . 2 . 1 . 1 . 3 オペレーションクラス 【 J T - Q 7 7 4 に準拠する 】
但し、サービスプリミティブ： T C - 結果 (RESULT) - N L (コンポーネント種別：結果応答 (途中))
は規定しない。
 - 3 . 2 . 1 . 1 . 4 コンポーネントフローの例
但し、サービスプリミティブ： T C - 結果 (RESULT) - N L (コンポーネント種別：結果応答 (途中))
は規定しない。
 - 3 . 2 . 1 . 2 T C プリミティブによるダイアログ制御
「 T C - 片方向」、「 T C - 開始」、「 T C - 継続」および「 T C - 終了」要求プリミティブは、 T C ユーザより、コンポーネントの転送を制御するのに用いられる。
アプリケーションコンテキスト名パラメータが「 T C - 開始」要求プリミティブに含まれる場合は T C ダイアログ制御要求プリミティブはダイアログ制御 A P D U を形成できる。
ダイアログ処理プリミティブからダイアログ制御 A P D U へのマッピングを表 3 - 3 / N T T - Q 7 7 4 に示す。

表 3 - 3 / N T T - Q 7 7 4 T C ダイアログ処理サービスプリミティブから
ダイアログ制御 A P D U へのマッピング

T C プリミティブ (要求)	ダイアログ制御 A P D U
T C - 片方向 (T C - U N I)	ダイアログ U N I (A U D T)
T C - 開始 (T C - B E G I N)	ダイアログ要求 (A A R Q)

TC - 継続 (TC - CONTINUE)	ダイアログ応答 (AARE {受諾}) (注1)
TC - 終了 (TC - END)	ダイアログ応答 (AARE {受諾}) (注2)
TC - U - アポート (TC - U - ABORT)	ダイアログアポート (ABRT) ダイアログ応答 (AARE {拒否}) (注3)

注1：これは最初の逆方向「TC - 継続」プリミティブにのみ適用できる（すなわち、ダイアログが送信起動 / 受信起動を (IS / IR) 状態の場合）。

注2：これは「TC - 開始」指示プリミティブに対する応答として発せられた「TC - 終了」要求プリミティブにのみ適用できる（すなわち、ダイアログがIS / IR状態の場合）。

【JT - Q774では を規定している】

注3：これはダイアログが確立される前（すなわち、最初の逆方向の継続メッセージの前）であり、かつ「TC - U - アポート」要求プリミティブ内の「アポート理由」パラメータが「未サポートアプリケーションコンテキスト名」もしくは「ダイアログ拒否」に設定されているときに限り適用される。

ダイアログ制御APDUはTCメッセージのダイアログ部内で運ばれる。ダイアログ部があるならばコンポーネント部とつなげられ、対応するTRサービスプリミティブのユーザデータとしてトランザクションサブレイヤに渡される。

メッセージ内のコンポーネントは、発コンポーネントサブレイヤがローカルTCユーザから受信するのと同じ順序で、リモートTCユーザに送られる。コンポーネントサブレイヤは、対応する指示プリミティブを用いて、受信側のTCユーザにダイアログ状態を通知する。

TCユーザは、前に渡された全コンポーネントを同一のダイアログIDを用いて伝達させるために、ダイアログ制御要求プリミティブ（「TC - 片方向」、「TC - 開始」、「TC - 継続」、または「TC - 終了」）を用いる。ただし「TC - アポート」プリミティブは別であり、これは保留中のコンポーネントを廃棄させる。コンポーネントサブレイヤダイアログ制御プリミティブは、次に、トランザクション制御サービスを提供するサブレイヤであるトランザクションサブレイヤに対して、対応するサービス要求を起こす。TCからTRトランザクション制御プリミティブへのマッピングは表3 - 4 / NTT - Q774で与えられる。

表3 - 4 / NTT - Q774 TCダイアログ処理サービスプリミティブから
TRプリミティブへのマッピング

【JT - Q774に準拠する】

(1) ダイアログの開始

「TC - 開始」要求プリミティブは、「TR - 開始」要求プリミティブにマッピングされる。これは、トランザクションを開始し、インタフェースを通過する同一ダイアログIDを持つ（0、もしくはそれ以上の）コンポーネントを転送する。アプリケーションコンテキスト名パラメータが「TC - 開始」要

求プリミティブに含まれている場合、ダイアログ要求 (A A R Q) A P D U もまたコンポーネント部とつなげて送られる。

「 T C - 開始」要求プリミティブ内の着アドレスと発アドレスは、トランザクションサブレイヤにより、開始メッセージを送る前に蓄積される。

着側エンドでは、「 T R - 開始」指示プリミティブは、コンポーネントサブレイヤで受信される。これは、「 T C - 開始」指示プリミティブを、ダイアログを開始するダイアログ情報とともに T C ユーザに送る。受信したコンポーネントがあれば、各々に対応したコンポーネント処理プリミティブを、「 T C - 開始」指示プリミティブに続いて送る。

受信トランザクションサブレイヤは、受信した発アドレスをこのトランザクションの着アドレスとして、また自身のアドレス (メモリから、もしくは受信した「 N - ユニットデータ」指示プリミティブの着アドレスから) を発アドレスとして蓄積する。 T C ユーザは受信した着アドレスと発アドレスを含む「 T C - 開始」指示プリミティブを受信する。

(2) ダイアログの確認

T C ユーザが「 T C - 開始」指示プリミティブ内でアプリケーションコンテキスト名パラメータを受信し、このアプリケーションコンテキストが受け入れられる場合、 T C ユーザは同じ値を最初の逆方向「 T C - 継続」要求プリミティブに含めるべきである。これにより、ダイアログ応答 (A A R E) A P D U は継続メッセージ内のいかなるコンポーネントとともつなげられて送られる。

もし提供されたアプリケーションコンテキスト名が受け入れられない場合、最初の逆方向「 T C - 継続」要求プリミティブに異なるアプリケーションコンテキスト名を提案して、 T C ユーザはダイアログの継続を要求することができる。これにより、ダイアログ応答 (A A R E) A P D U は継続メッセージ内のいかなるコンポーネントとともつなげられる。

これら両方の場合において、ダイアログ応答 (A A R E) A P D U の「結果値」フィールドは「受諾」に設定され、また「結果元診断」フィールドは「ダイアログサービスユーザ (空)」もしくは「ダイアログサービスユーザ (理由指定なし)」に設定される。値の選択はインプリメントに依存する。

応答する T C ユーザは、「 T C - 継続」要求プリミティブを発する。これはオプションとして、自身のアドレス (B 側の発アドレス) の変更を決定したときに限り用いられる発アドレスパラメータを含む。

トランザクションサブレイヤは、新しい発アドレスを蓄積し、開始 T C ユーザに継続メッセージを送る。

トランザクションを開始したエンドにおけるトランザクションサブレイヤは、継続メッセージを受信し、これが最初の逆方向メッセージなので、受信した「 N - ユニットデータ」指示プリミティブの発アドレスをトランザクションの着アドレスとして蓄積する。このトランザクションに対して蓄積された発アドレスは不変のままである。これらのアドレスは、このトランザクションに対し引き続き全メッセージに対して用いられ、トランザクションの全期間において不変のままである。

(3) ダイアログの継続

「 T C - 継続」要求プリミティブは、同一のダイアログ I D で引き渡された複数のコンポーネントを転送する「 T R - 継続」要求プリミティブにマッピングされる。コンポーネントサブレイヤにより拒否コンポーネントが生成されていた場合には (節 3.2.2.2 参照)、このコンポーネントも転送される。

受信側エンドでは、コンポーネントサブレイヤにより受信された「 T R - 継続」指示プリミティブは、

「TC - 継続」指示プリミティブにマッピングされTCユーザに送られる。これに続いて、受信したコンポーネントの各々に対応したコンポーネント処理プリミティブをTCユーザに送る。

トランザクションのこの段階の間は、ダイアログ制御APDUは交換されない。ダイアログの確立の過程でダイアログ制御APDUが交換された場合、ダイアログ応答(AARE)APDUの中で送られたアプリケーションコンテキスト名が、ダイアログの全期間においてTCユーザ間の適切なアプリケーションコンテキストと仮定される。TCは、ダイアログの本段階の間においてダイアログ処理APDUの存在を異常イベントとして扱うことを除いては、これを検証しない。本段階の間、ユーザ定義の抽象構文を用いたダイアログ部がオプションとして存在してもよい。

(4) ダイアログの終了

TCユーザが、アプリケーションコンテキスト名を含む「TC - 開始」指示プリミティブに対する即時の応答として、ダイアログの基本終了のために「TC - 終了」要求プリミティブを発した場合、「結果値」フィールドを「受諾」に設定し、また「結果元診断」フィールドを「ダイアログサービスユーザ(空)」もしくは「ダイアログサービスユーザ(理由指定なし)」に設定した、ダイアログ応答(AARE)APDUを形成する。「結果元診断」フィールドに対する値の選択は、インプリメントに依存する。どのコンポーネントとともつなげられたダイアログ応答(AARE)APDUは、伝達のため「TR - 終了」要求プリミティブ内で送られる。

「TC - 終了」指示プリミティブにより、ダイアログ状態遷移は空となる。

ダイアログの基本終了の場合、このダイアログにおいてインタフェースを通過した全コンポーネントおよびコンポーネントサブレイヤで生成されていた拒否コンポーネントは、「TR - 終了」要求プリミティブに含めてトランザクションサブレイヤに渡され転送される。これによりダイアログは終了する。

受信側エンドでは、「TR - 終了」指示プリミティブに含まれた各コンポーネントが「TC - 終了」指示プリミティブに続く適切なコンポーネント処理プリミティブによりTCユーザに引き渡されるとダイアログは終了する。

コンポーネントサブレイヤは、TCユーザがダイアログの終了を要求した場合には、このダイアログに関連した全コンポーネント状態遷移が空に遷移したかどうかはチェックしない。同様に、コンポーネントサブレイヤは、「TR - 終了」指示プリミティブに伴われたコンポーネントを引き渡すとこのダイアログに関連した全状態遷移が空に遷移したかどうかはチェックしない。終了状態において、「TR - 終了」要求プリミティブが送信側のトランザクションサブレイヤに渡される時、または、全受信コンポーネントが受信側でTCユーザに引き渡された時、空以外のコンポーネント状態は空に遷移する。転送を保留中の全コンポーネントは廃棄される。

TCユーザが、受諾できないアプリケーションコンテキスト名パラメータを含む「TC - 開始」指示プリミティブを受信し、ダイアログを終了したい場合、「TC - U - アボート」要求プリミティブを発する。「TC - Uアボート」要求プリミティブにおいて、「アボート理由」パラメータが「未サポートアプリケーションコンテキスト名」に設定されていると、ダイアログ応答(AARE)APDUが形成される。ダイアログ応答(AARE)APDUのフィールド値は、「結果値」フィールドが「拒否(永続的)」、「結果元診断」が「ダイアログサービスユーザ(未サポートアプリケーションコンテキスト名)」に設定される。このAPDUは「TC - U - アボート」要求プリミティブのユーザデータフィールド内にあるどのコンポーネントも一緒につなげて送られる。

【 J T - Q 7 7 4 では を規定している】

「 T C - U - アポート」要求プリミティブ内の「アポート理由」パラメータが無いがあるかは「未サポートアプリケーションコンテキスト名」 もしくは「ダイアログ拒否」 以外の値の時は、ダイアログの異常終了を表し、節 3.2.2 に記述される。

【 J T - Q 7 7 4 では を規定している】

「 T C - U - アポート」要求プリミティブ内の「アポート理由」パラメータがなしか「未サポートアプリケーションコンテキスト名」もしくは「ダイアログ拒否」より他の値であるときは、ダイアログの異常終了を表し、節 3.2.2 項に記述される。

T C ユーザがいくつかのユーザ情報を含んだ「 T C - 開始」指示プリミティブを受け、それが受信不可と判断された時は、 T C ユーザは「ダイアログ拒否」と設定した「アポート理由」パラメータを付加した「 T C - U - アポート」要求プリミティブを送出する。これはダイアログ応答 (A A R E) A P D U を形成する。ダイアログ応答 (A A R E) A P D U のフィールド値は、「アプリケーションコンテキスト名」フィールドが「 T C - U - アポート」要求プリミティブの「アプリケーションコンテキスト名」パラメータで受けたものと同じものを設定し、「結果値」フィールドが「拒否 (永続的)」、「結果元診断」が「ダイアログサービスユーザ (空)」もしくは「ダイアログサービスユーザ (理由指定なし)」に設定する。

ダイアログのプリアレンジド終了および T C ユーザアポートは、保留中コンポーネントの転送を起動しない。このダイアログに関連した全状態遷移は空に遷移され、コンポーネントは廃棄される。

3 . 2 . 2 異常手順

3 . 2 . 2 . 1 ダイアログ制御

不正又は誤って受信されたコンポーネントの理由でコンポーネントサブレイヤで検出された異常状態は、コンポーネントの拒否およびローカル T C ユーザへの通知をもたらす。ダイアログのアポートは、常に以下による決定の結果である。

- 不正なダイアログ部を受信した場合、すなわち構文上の不正、または下位にあるトランザクションの状態と不一致である場合のコンポーネントサブレイヤ。後者の場合は、ダイアログ部の存在が必須 (例えば、ダイアログ要求 (A A R Q) A P D U が開始メッセージで送られたが、最初の逆方向継続メッセージ内でダイアログ応答 (A A R E) A P D U は受信されなかった場合) の時にダイアログ部がない場合や、不適切な時期にダイアログ部を受信した場合 (例えばトランザクションの動作中状態の間でダイアログ A P D U が受信された場合) に対応する。異常を検出した側では、「 P - アポート」パラメータを「異常ダイアログ」に設定した「 T C - P - アポート」指示プリミティブがローカル T C ユーザに対して発せられる。同時にユーザデータとしてダイアログアポート (A B R T) A P D U を持つ「 T R - U - アポート」要求プリミティブがトランザクションサブレイヤに対して発せられる。ダイアログアポート (A B R T) A P D U のアポート元フィールドは「ダイアログサービスプロバイダ」に設定され、ユーザ情報フィールドはない。受信側では、「 T R - U - アポート」指示プリミティブ内のユーザデータとして、アポート元フィールドを「ダイアログサービスプロバイダ」に設定したダイアログアポート (A B R T) A P D U を受けた時に、コンポーネントサブレイヤによって「 T C - P - アポート」指示プリ

ミティブが発せられる。

不正なダイアログ部をとまなうメッセージ内で、コンポーネントを受信した場合、これらは廃棄される。

- トランザクションサブレイヤが、トランザクションをアボートする。コンポーネントサブレイヤは、ダイアログのオペレーション状態遷移を空にし、保留中のコンポーネントを廃棄する。そして、TCユーザに「TC - P - アボート」指示プリミティブを通知する。
- TCユーザがダイアログをアボートする。送信側では、「TC - U - アボート」要求がTCユーザから受信される。この場合、このダイアログに関する動作中コンポーネントの状態遷移を空にし、「TR - U - アボート」要求がトランザクションサブレイヤに引き渡される。受信側では、これに対応する「TR - U - アボート」指示プリミティブがトランザクションサブレイヤより受信される。このダイアログに関する動作中コンポーネント状態遷移を空にし、「TC - U - アボート」指示プリミティブがTCユーザに引き渡される。

「TC - U - アボート」要求プリミティブがダイアログの動作中状態の間に発せられ、「アボート理由」パラメータがないか「ユーザ定義」に設定されている場合、ダイアログアボート (ABRT) APDUが形成される。ただし、ダイアログ要求 (AARQ) / ダイアログ応答 (AARE) APDUがダイアログ確立中状態の間に用いられた場合に限る。プリミティブ内で提供されるユーザデータはそのとき、ダイアログアボート (ABRT) APDUのユーザ情報フィールド内で転送される。

【JT - Q774では を規定している】

ダイアログ要求 (AARQ) APDUを含んでいる開始メッセージを受信した状態、すなわちダイアログが受信起動状態の場合、TCユーザは何らかのユーザ定義理由によってアボートすることができる。そのような状態では、TC - ユーザは「アボート理由」パラメータを設定し「未サポートアプリケーションコンテキスト名」もしくは「ダイアログ拒否」以外の何らかの値を設定して、「TC - U - アボート」要求プリミティブを送出する。そのような場合では、ダイアログアボート (ABRT) APDUは「ダイアログサービスユーザ」としてコード化され、(もしあるなら)「TR - U - アボート」要求プリミティブの「ユーザデータ」パラメータとして与えられた「アボート理由」といっしょに生成される。「TC - U - アボート」要求プリミティブ中に現れた「ユーザ情報」はABRT APDUのユーザ情報フィールド中にコード化される。

ダイアログ要求 (AARQ) APDUの応答を保留した「送信起動」状態中で「TR - U - アボート」指示を受信した場合、「TR - U - アボート」プリミティブの「ユーザデータ」フィールドは「ダイアログサービスユーザ」としてコード化された「アボート理由」といっしょにダイアログアボート (ABRT) APDUを含む。コンポーネントサブレイヤは全てのダイアログとコンポーネントが処理中のリソースを解放し、「アボート理由」を「ユーザ特有」、(もしあるなら) ABRT APDUのユーザ情報フィールドから取り出した「ユーザ情報」を設定して「TC - U - アボート」指示プリミティブを送出する。上記の記述のようにコード化されたABRT APDUが存在しない場合は、コンポーネントサブレイヤは「P - アボート理由」を「異常ダイアログ」と設定し、TC - ユーザに対して「TC - P - アボート」指示を送出し、全てのダイアログとコンポーネントが処理中のリソースを解放する。

ダイアログが「送信起動」状態、すなわち開始メッセージが送られたがこのトランザクションに対する逆方向メッセージを受信していない場合、「TR - U - アボート」要求プリミティブの結果は純粋にローカル

である。本ダイアログに関連する引き続くいかなるメッセージも、表3 - 5 / JT - Q 7 7 4で示される動作に従って処理される。

上記のケースでは、プリミティブに伴われる情報（P - アボート理由またはユーザの提供情報）は、コンポーネントサブレイヤをトランスペアレントに通り、TCユーザに渡される。

3 . 2 . 2 . 2 オペレーションに関連した異常手順 【JT - Q 7 7 4に準拠する】

但し、受信コンポーネント種別：結果応答（途中）は規定しない。

3 . 2 . 3 整合性問題 【JT - Q 7 7 4に準拠する】

3 . 3 トランザクションサブレイヤ手順 【JT - Q 7 7 4に準拠する】

付属資料A 【JT - Q 7 7 4に準拠する】

但し、付属資料中の状態遷移図と、前章までで規定されている内容に不一致がある場合、前章までで規定されている内容を正しいものとする。

また、状態遷移図中の「TC - 結果(RESET) - NL」及び「結果応答（途中）(RR - NL)」に関する記述は規定しない。